續漆栗毛二編

上

へ遠13
1164
26

宮内省図書寮

海野信盛蔵書

特 へ13 1164 26

尊詣 續藤栗毛二編序

續初篇より出て陸奥の国塩竈の浦に遊び、紀伊加田の浦に漕ぎ出せしに、俄に西北の風はげしく、帆綱きれて、ひるがえるを、先角をもうち船走せ、手を失ひ風波に漂ひ、雨降出て、二月二日洋中に漂ひ

陸奥の口ふるよ著く。此雄島に遊て。
復び船を怕れ上陸しまの陰兼ねみる
所なまたたしく荒波年波うしがくの口
四里ばかりを視るよ怪まして洋夷巨艦
の巨砲厳神ふ寄間毎年銅の炮を放ちをあけ
たるが日ホ映じ浪ふ打て白ふくも飛ぶ
奈神天照を神素盞烏命國常立命大國主
命三女神まるハち弁才天とぞ
ゆ〜〜ふ寄ふ下ふて一番はしるる寺

宮嶋参詣續膝栗毛二編上巻

東武　十返舎一九著

名ゆ〜あの四周七鴻といふ。九亀より下津井
の間ふて。ぴぐとも怪岩奇石ども多く。古松煙を含。
海棠日ホ輝きて。紅中の吐説いふもさぐぱ以
嘉沢山ふ清し。東都の鑑岩ホ次第ふ八
なるものふ。同志の人乃ふ。もるよ。まるも
かるる便ふ。あるまでなど思惟して。ぴぐや義州

巖島よりまでんとて。伊勢より打乗り。順風よ帆
あげて。九亀の湊と出しよりしよ。七嶋の佳景。一里の
うらよりて。漕よ名亀もおよぶべき状態なり。
所謂七嶋よ嶋。須佐嶋。和気嶋。石亀。横波よつけり。
主張ぶ。波来しまかれ。ぬい波のうつりたるなり。

猶陸の佳景沖なる亀かうまで

あぐりくんしき七乃景色
新てその日の未の刻だ風風く漕出る
りけんべ下陸并とらいよ。とまづく

私ばくりるあぶぞ。九亀より七里ばかり士が浦よる私のくよ
あらぶぞ。国は沖さうて出ぶうし私ども。狩ぶどみ
漕よかりけまとた。亦の高舟伊勢とる漕せ
ぶぎぶうせ。人一酒のまよやませ。かざこのけけ
ぶぎ。こへしやませ。かん解ぶいい事。こまんかーこ
まやませ。うまやませ。亦ぶコリトぶーさのぶく私ぶさん
加八一ホニ法まふ。孫人。私ハりんやぶ孫くのく名
あよぎぶぶ。あぶぶよ止ぶ。ぶぶまんかーまんまこ

大当丸

朝顔や
紅千
哥麿
墨山

がるい　子ヤトのひつてきそつしろうとつかはらうこれあるごとくごーそもの
かるまてつろをまるやまとそもぜんちろのろ会の人でハ多ハ
まあきるひ赤をつはさせ酒とのむもあるもあるもきこさたらも
あくせくるがつたいもあて凡且べばばあくろうつがあひしくあくびあくろう
やくコリヤアたでまふ移へるるあど風がさつたろあく
るつさ。私どさん何が移まる人エイコリヤ。ちぬや黒鯛
乃うどがろある　ふくあんどろてきるひろ込
八エイ　あんびきろちやようんきるみコリヤア　ひこ
麦蕎兼鯛じや。パウ釈がしてちまて。　ぜろけ　あとかつあとも音。
小びくまの青どもまめくるいコリヤあるくもりろい

私どさんどろちろの掉をめーるせん。彼でも移ろく
ゆろう十二おとろ移しいのそ
じや　小八さんをかくて十ヤこかるまるるろ十ヤこかるまるとヤ移へ。まんろと江戸の
那川の沖でゆろちろが学さ私がどうーーことと。
さろたりあとくもさ移へも。動ろまんどさるおめろ。
コリヤあ紙どと。私どまどくくてあるうろ。乃さ乃
のむろへたろんとあくまる紙面さその彼のすきま
さ。祭合ど女連どろ。皆ひとちどまるくてあるー

紅ばいのあやアバアきこくぶ女中のうちでひとり
あの鍛よりもまんさりのがあるとまくるうぶコリヤ
大ぜいの命あやかくられ給よりくぶひとり寝
でもしくぶおのさあよくうまてやりなるがいひとり
と。何ぐ女のうすぐらぶそれつとらくぶ法ゆうとあく
やぶ大さうぶ。あでおいくぶだらをくぶ今もんがあつめ
を出ぐでけてもんせうと。おつぶぐめひぐ。屋さあく出。
コリヤ鍛のなくぶりめ。あそくぶやぶおれを推とあく。

あづまう子のちくぬきぐぶ。くそがあれまるぐくつぐ
祝くとぶきうくりあくく向眼ぐぶ。その鍛ぐくそくく
と逃くくりおうくぶそれうぶ紅がぐるくぶナニト寄ぬ
ぐヤアあうめくう。ソリヤあ。ぐだぐヤ。ノウおくく美人写
ぐヤおりヤせまいチヤ十二おいくぶ神でも仏でも祝く
けまどぶその時ふき蒲鉾屋をして居さかぶ。ハくく
イヤかうくぶそ。ソレあくのりのぐヤ。ほくくとあげさ三ヤ
ますせ。ヨイトちあぶ。コリヤ鰒ぐく。ト中ぐくの鍛とうあげ
ぶ式奥へはいられること

たゝをとゝ〜ふゝれくるりのゆ、たゝぶのろたゝの銘のきの　小八　ヲヤまゞ
ぞ　おれさのゝを極のまようちつけ　ゆうくしたゝをぬきとり

ふゝまゝくけつゝる。コリヤ　姉ぶ。ほ次さんくちゝつときて
ゑさゝ〜ぷゝやゝくト　よびまゝれて　陽　ヲヤく。ゆめ行さ
のゝぷコリヤ　おりゝろく　ト　ゝそゝるゝちゝやゝくゝゝ　たゝをゞゝろゝゝ　小八　ゝゝ　陽　ゝゝ　陽がへゝゝゞ
のゝまゞきふゝ〜めく　陽　ナニ　まゞ動くゝぷゝゝ一ゝふゝ〜て
ゑゝゝゝ　ト　ゝんのゝゝゝゝゝゝゝゝゝかの陽をゝゝんでゝゞのゝちくゝゝのゝゝ
ちをゝゝゝゝのゝとゝゝをゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しゑやんたん。トかうやくをのべさせるのくすりをもつて
大きなる紙よのべてあるさる。そんなるふ癖ぐ大きな
どざりやまとろ医ん今まちやん。そぐのよにさるのくすり
いちめんよ。鰻とそどもの歯のあとぐあげてでや
あるぐい小ホンニ。いちく膏薬紙たるもめんどぐぶ。
ぐろくろりまきひぐくたるぐいのどやアあくく。
陳アリ
ぐまでたりあるぐのる少そふさくつまぶ
特くとる紙いのぐそれどやアあくのぐこれ医よる

だいよろたん。ちさるのくこぐいあくそやんたん。
トかうやくをのべさせ紙のまんなかのくぐちの小ぐくそのくそ
出るあどあるをあけて彩よぐくろくとたりまる
寿ぬみ彩よるくさ医ぐくぐうどものはさるく
煙料どもふつけさやくよぶくそうづゆくさの
ごくくわくくく注ちりくろくも稲くどんざめよあくさ
稲ひそげよはかくとこれ稲ども
かくる毒魚よあくたぐう
扨おし西北風の吹出ちくとく。獲を解て紙士

あぐく 佐前と佐中の境よいる。ふわ玉橋。南
ハ佐前の多橋るく。けあろよう佐後の白
石までとる橋灘といふるとぞ。

あぶかけもるの紀日和とて悠くと
蛙ろ法ら〳〵ろしまの灘
順風あぐら強よたげーく吹出しく。和ハ矢
ようもたやく。微溝白石を打ち紀火ろ
ろ、佐後の國朝の湊よいろる。下津井より是
ろんぐ九里余

けあろよたぐまくく 繁昌の港るまとバ。陸乃
方家居千軒あまくろ建つ紀。往来ちげく賑ろ
よんえろ一ソりヤあぐよ来ぞく 和仁りうぢ
ろりうぐョウソロウ ちぐのハギイ〳〵りろぐるの
ハカラくくく 此ちハ和をんろけて風呂をハたあうどんと。
ちあろ小あをとぎきろ
湯どもあぐあうくくろ ケニいらまやまく
ハアりヤア湯あぐやア 強くうぷいろぷい 這入ふ湯屋
さんどうぐハろろ。アあめへたいまやナ

コウ湯　弁のどうさんたるこつ　湯弁の　サつござこ
ゝやませ　きりのハたゝへぬいさゆふト　ゆぶをたゝ
おるうむふの　ゆ　コリヤどこ　させたゝごこ
とゝのうるぐら　ゆぶをのの
ひきと戸あんくあるケニ　がらざのとだろして
たゝいゝゝやませ　ヲットよくぐこのうかとんざ
ゆ弁　ナガラテ
ゆかる湯ぐぞ　おゆ　アクラカイテ
ゆせまてる人デヤト　けうちあ紀
ませ。鮮ゝいゝやませ紙端いとう　並酒　くちや　ゆぶ茶のふ

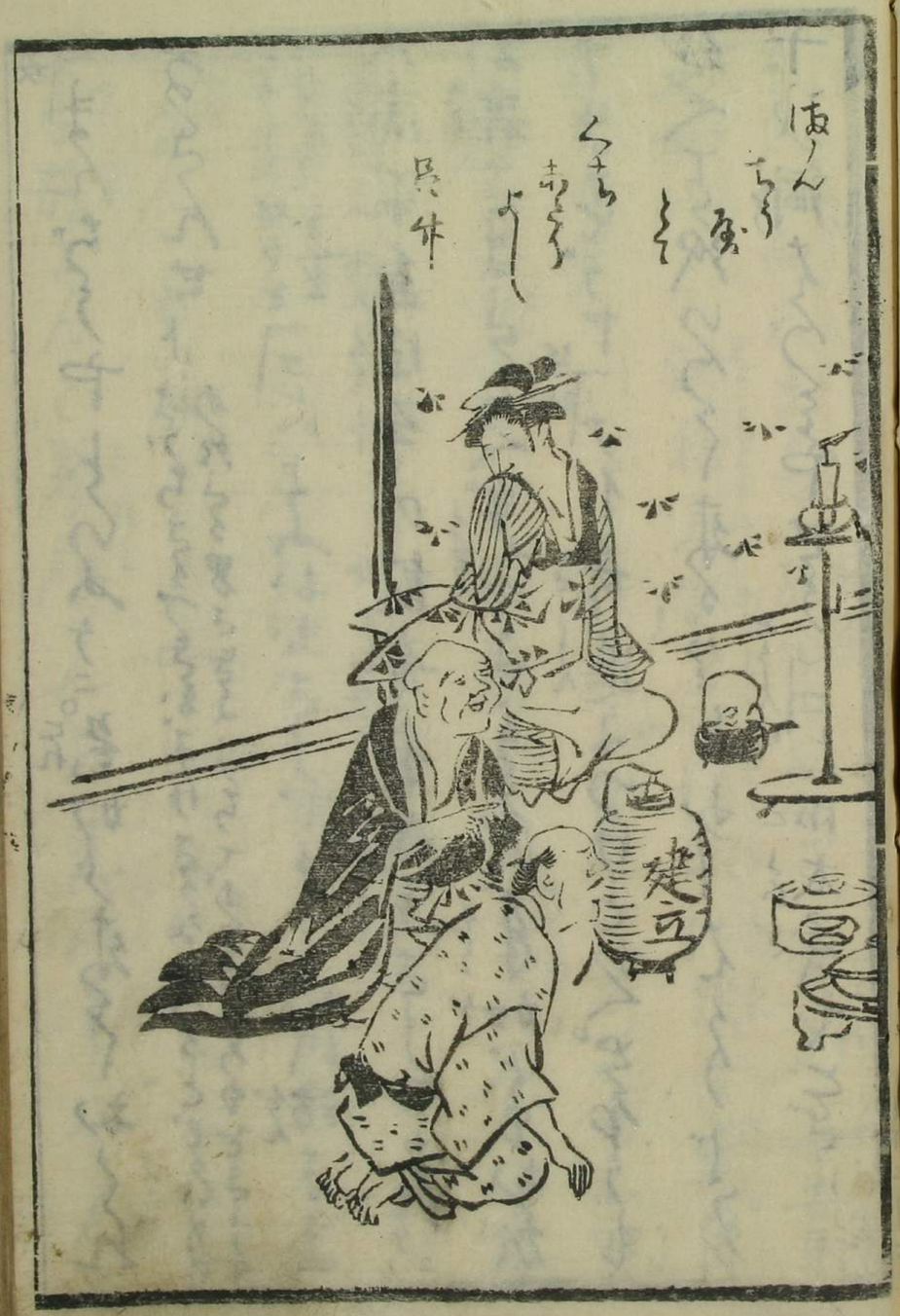
まつやまをぬいよろづやアく。トはあちよこざるを湯
ゆのせんどうをえらひ
ておきなさい「イヤアこのでは叱め。こんだうの殘おこせ
ゆのせんどう
あるん」のとでや。どろめざこと酒の殘くんあん
るげめをなのいものこのはせく。ナニ。はいとう
めが「ナニ」ないとう。こあつあてたらどものあへる
と沢ぬうあるテヤ。おらが酒ぐでらひちつておどれ
ハおらぐじやろ。孫の四こまつけるぞ。トあのさかをあうまうあき
酒人
もあまさおれるひあま「イヤアそあつまつ。湯ゆのたたら
ごもデヤ。うらうが殘もかけくちくさんおろよん
ことまいをるこ。打ろうせく。トこれをあうあげうこ
あらこ　ごんらくとふけてあく　「ヤイくこんるるなで紀のがうあ
高船
かくせく「ろんとうどもヤアイく。お母よく。トこ
るぐうこるうよあげのびの小八そのの中
かうこびをさー出ばんををえてかうしぶ。「コレくせんどうさん。
こうのこふげるハいひがおのぶがたまうを行く。湯ぶゆるくて
風をひまそうざりんあそこくつけくあげてうを行へ
「イヤあんるげよ大せいねおるナニ。うち又おこへのさを

うちころされるデヤ　ちろしんく　そんるのふ
おいらへどうするのさ　そうらまろうこまーやせ
陸奥ノ国ノ方ヤケニ。いろきよあとくるぶつくどやあろ
デヤ　エヤ　そんごとまつハアクワサメ。そりやはをひく
へ。エころるさちりひの外弱虫ざるんのまうこさア
ねくやふつ　ちゆんる　まさしやませアノ　でなども
がいんまよおとを道おるケニ。あのんサアく　ゆり
ま志よくト　ゆびをもうくこさめどせどかうの私　ハアコレハ
ちろくるふびイいびれやらろうらむど

あんるげやふこんるのげやら。私が志まるのんケニ。
ようばしやませく。どどぐく　陸奥きさ八ろ。爰ざく。トいのをまよ
陸奥さんく。むんく。いあくまつい用ア
ちきつられバ小八そうく　アヽさむんく。いあくまつい用ア
ちよりふあへとびこそ
あつさトこどとしてらぐきかのをきてるうち。紫合のひとり
はきるうの姫女町ろんざろせんとくおりひくよ出ぐくふど。
陸奥ろ小八田とりよあうくして。山源高家いづまを天麗
小垂よ打のろ。ごのろこあづてまれバ　びれい
おーく。世よ彼茶焼とのふ陶器。保命酒垂ろ表
七福　莚るのど名ねるのう。町屋をたるのんて濱通

のかくよ裏町どをうとく（ゆうぢょ）拵女屋のおとろふ
出まーべ。女どもかどぐちよりのぞびこちて「女」あのさん
おとろうるさんせ。おあそびるさんせ。ト（あがりはなをとくとくてひろぐる）
「ヨリヤ」つまぐさをいろさたるせ。「女」（ほほウ）
いひなさんせ。おつくろうたんのふてどやあろ（ケニ）きたろう
るさんせ。ト（大ぜいよりてむりなるのよ）（陪）どうきたふ
（ふろをひきのきざろこむ）
きさ八幡ぐあるろ「ヨリ」きたろこが拵へぢろひりあが
ろあろ（女）（サア）おのでるさんせ。ト（うちつれてちくの中あんへ、
どそれべあそこ夜のさつーき）

（あそびにろる「ヨリ」（チヤニヤ）（ヨリヤ）（チヤニヤ）ゲ（げの子の一）るてきよ。年よ
三みせんのおと）
くよめろきろきよめきろめきろきよ。あ
風よ。ぐかいろ。おろきよ。ぐよ。きろろ。でんく
ろでんのぐ。ぐんきよ。ぐよ。ぐんの。ぐよだるんたの
三ぐ。つるぐんさろろ。きぐ。ぐふりどれのまんく
いときろてるぐぬく（ヤンヤ）「ヨリ」ぐ（ヤンヤ）きろつい
移ろかりおりろく。ぐよ。ぐよぐーれきどどぐく（女）（ぐ）
ぬきろろるさんせ（陪）（コウ）女中。ぐちい何金とろふ



「まんぢゝやとゝのケニ。是かゝゝまゝおゝん
るのさんせト はゝちさゝづを。さけさゝるりぢと。ろいものめ。ゝる男さゝ。ゝちておさのころもをきさる
ぢゝしん 略を
つれて来う。ゝん去
「コレハよゝお出さゝーやまゝ。此坊さゝま
八。南無阿弥陀仏の観音堂。建立さゝーやまゝ。
お寄さゝまゝちゝ。ぢゝおゝよゝぢ。孝加どもお旅
ゝやまゝでヤ。「アイ寄進よつけとかゝ。どゝやうも
稼ゝゝ紙いゝゝ来る。ゝゝ。ゝゝだゝりぢゝ
十郎衡ゝぢゝゝやせゝ。「コレハ四太郎でゝ

女
まゝ。回向ゝまゝよ。只今のおゝぢゝ。現当二世安楽。
先祖代ゝの諸精霊安寿極楽仏果善提。
あゝぢゝぢゝ。ト出て「ゝんのゝゝ。女房四人
ゝゝゝく。回向よゝもめゝゝん「モシおでゝさる。
おゝゝまゝゝどゝゝん。出ゝーやゝて「ホシニ
おゝゝゝんぢゝぞゝんゝげゝ子ゝゝゝぢゝゝん
「ゝのんでゝいひゝゝゝ。ゝゝ出ゝゝ。「コレ今ゝどん
茅舎さんと琴浪さんをおゝぢゝゝ来さんせ

トいひつけてやをとその上でつるとろとろをとれてくるぶくぶくと
田舎めれしられぐもふくろうるぐらいくろてのきるゆうゆうをるる
てくとさるのりまるくりるもくくりてるるる「コレく妻紙
とうとうらうえのるるくくとぐ・ぐんぐるとくて
の野や。どろよいそんるげるぶろそうづらくく
るんのるるでやうぐぐいふとぐまれうちゃん
とぷてさぐのあくる。ちくれ下のむぐろりちるる
うんるつぐもしてケニ。りふちづき男じやの。
気ぐやのとるくするげる。もくくまコ、ナ
けんーくんぬがトるるをひとくくからそのくくへるとと
ヨタカ　かめるハロ、とるれぐくくぐくくく

別當（ベツトウ）ぐぎろまいぞく。「男」エイあれハぞりとの
おごまんごごごごごごやまんぞるぐのさまを
ひうしやまうぶ。あ丸よあうさしやまし
さらぞはるさやまして下さりませ「士」イニヤ
さるまるいく。それよきけがさおどれんがぞるぐの
どもあ射さくぬしあるあんちづき男やの。
意ぐやのとぐぜどぬるいさん。牙どもこあく
つけてぬるいさまおぐ遠ありだい。牙さあしやぞ。

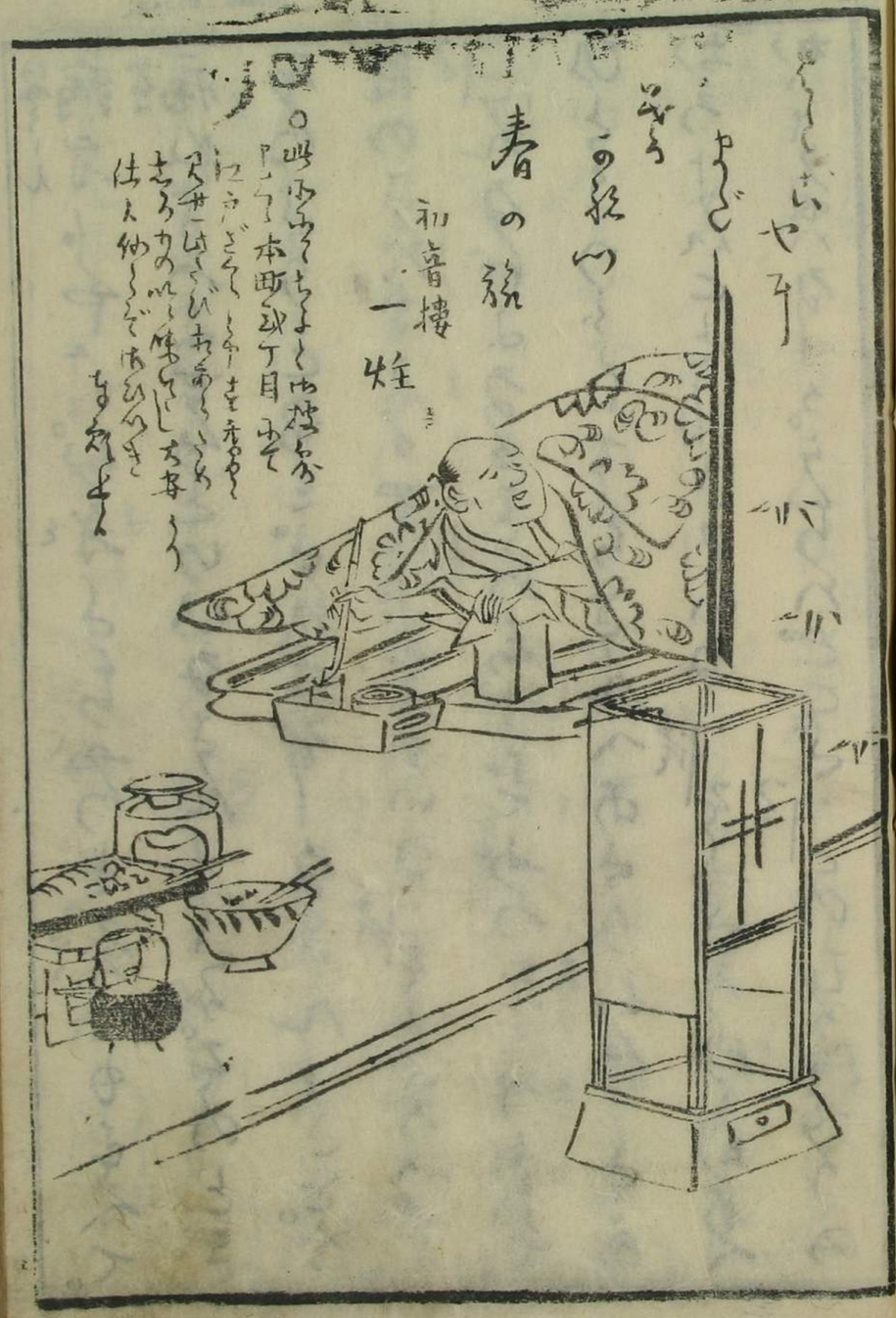
頓成（トンジヤウ）接女（ヒヤウ）どもと足意（ソクヒ）る牙がさぐでるい今殘（ヨンヒ）
とりつく求（モトム）るあどもよりるく。あんぐいあるいい
よぬるいさるだいものい、ばくみうあや
つけくやらんぐい。別書（ベツシヨ）こくづまとらくづら
ふやや牙どもうらはたんぐるいばぐそく
トりつそのわいのたぐぐちよ。ぐるとみるると男いろ
ぐるあうちあのくさるぐの牙りくさまぐるびとくふう
こあさまうあと。張（ハリ）いぐくのうらであ。あんるよ
ぐ考（カガ）をいん人があるりのぐ。ぬさりふさづぐ

おつりがよくうつ。おめへがこの退屈ごろう
うち。トこそいのあいうさりがれもうつくしきよふくうえうよ入。
女年のさがんをとくとくさろづきをおさめるとやがく
女のおんるいまつれてやこそ　サアもうとろうちくさんな
きりるふるのあいてこの筆づる
せんごろうちゃア遠慮ものぶ。形ーさく取くを
おんくくこうるとうあくがこのこんみうこい
ものもおればあるりのぶ「ほ助いひるさんせ。
おまんさんのこちの孫きかぶんこるさんこ
「コリトアあんまり塩辛いものが好ぶごらぶ。
らぶまぶ出まるこのぶ「あぶゆいひなさんせ。
ちろづきの女郎さんぶこよくひはれるさん
しとりのぶやあろう。おまんさん肌えひとる
ありるさんセトもびとこくぼけうこそひこそもりの
うちもいこと「兼弱さまよ
そうこさこう
トうびいぶこてつれて面く。鼻風八「どんぶほはさんおん
ひとえをぶこそおちうハきこ
アこんぶの「いめへ中こんん今どこくうりもんこ
「おいぶが女ちゆ。内儀うら嘆びよまそうこぶ

あくのおそとあいらぐが女らぺんとうの兄弟
ごとりのことぐ「理屈そそくさ」仙くめるし
ありつさそれどやアおもどぐ婦聟さまごろ
ゝゝト此間・ゆでづこうるよそでとあさ。「おあさんぷら
ちゝゝるさるぐうきてり
ゆふうるすいとぐ出来「おりゆすゝさるんみ「
ぐゝゝゝ「ぐうらのてらさんぐぷさのへてり
死るさんゝと今いのくゝもてゝこらんるゝとそく
孫ぐ「てらとアるんぐ「ぐうらの男衆どやこうる

「ゝいりやアちゝちおとぐごの「ぐんようらぷゝんぐ
ひとりのてらどやケニかるゝうてくぐぢんん
のへてお出るさんゝさぷあちのおあさるあく出さ
子もぷうらぐ妹どやケニかるゝ母ぐつくゝトよ
おんでるいてどやるんる「ゝいりやゆつもぐぐ
ちゝさぐ行くとあるゝト考ゝく。アア考くあて寝る
ぐいよ「ぐるんよ此西月でらさんぐ来るさん
ゝゝとえいひるさんゝゝふぷらさんるけう

盃
紫五竜
二雙


春の祝
初音樓
一炷

病牙じやケニ。おもはくちあつと灸でもすへて。
病ぬよよせんといひなさんしーこぐ。そのとき
あつよりとあをぐ紙こぐ。あさんしーこと。今
用のさたよるせうじやこりいる。そかぶろふく
ぶんるばよるるとおもふなぞ。ぶつそうづくして。
ひとうつふくてらさんへあさりおつとぐ。
おろよんことーこるいる。そふぐろふく。おく
かさるへすーう。うちんどこぐ。このあうぐの

あくらーを
背をあつじやこんる。あんこぐろちが
てやつ。紙にどく。各のおんとおく。
とおんな。なんぐ。ふんに命。ふ唐。ちぐ。てさて
仙さ。各もあるりのぐ。ト。はちちちちぐの。「茶碗。
ふんぐ。ふ糸。さんが死ぬさんーさそかぐ。ぐ。
まれるさんーさのぐやる。きのんてう。ふ
ぶくいきるさんをとふく。紙。おちく。死
なさんーさげる。和。ア。ふんぐ。ふ。さんが。ふ。ふく

いきるさんをとて。親で死なるさんしてじやへ。
ぞうさんしてとろ。ほほ帝さんと各の
つるさおんよ。まるのりのいるいみぐらが
在所よも泳ぎをくさんといふ人がありまろと
が。痛を痛ぐくらちの稲をぶうまぶよらぐと
ぶ見まてじやケニ。おどれんさんがりよちづき
男さ見ありくもしじゆ。その稲ほをくく
さんぶ。ありて見ると。米がぶ遠へて貢ほうて

死なるさんしてとろみ。ぶをとろぶ。おれが殺ろて
安てゆまだいめくまりのるんぞの見ろいををぬろ
ちやアかぶ。トミ子ちぶ。ちぶ。ちぶ。

ちよ様く女ろを買へしやアア様くいめへやうい。
りよ母るべつ「トこのれいそよ」「お母さんがさ。
そんるべよ母てたろとてく道るさんをとぞら
ひらをまんろ。怒しく「是るのさんセ」トあい
ゆりろこもいろくるべめるうちこさハのあいろ女ゆもさろう。
さまぐあゆりうとびるよでばたりこ八　私のうちあんざとぶこの
ちくよてかるこのこりもネさりどよおりのこるもよてがりくるあもも
きげんとるトせバ女くもゆもらうを人どのうちよりぶろひびゆうお
ろんろるくろネとうろくネさうを人どのうちよりぶろひびゆうお
ひさまハもりしもびづくもなくネりいかひをくもとぶうくとをと
ゆろれかるうゆ西の出るとちるもるるあるれがけうちよをろめりセー
しびんとるゆ私の出るでとぶりるよあるをしこちらろんさるでしちら

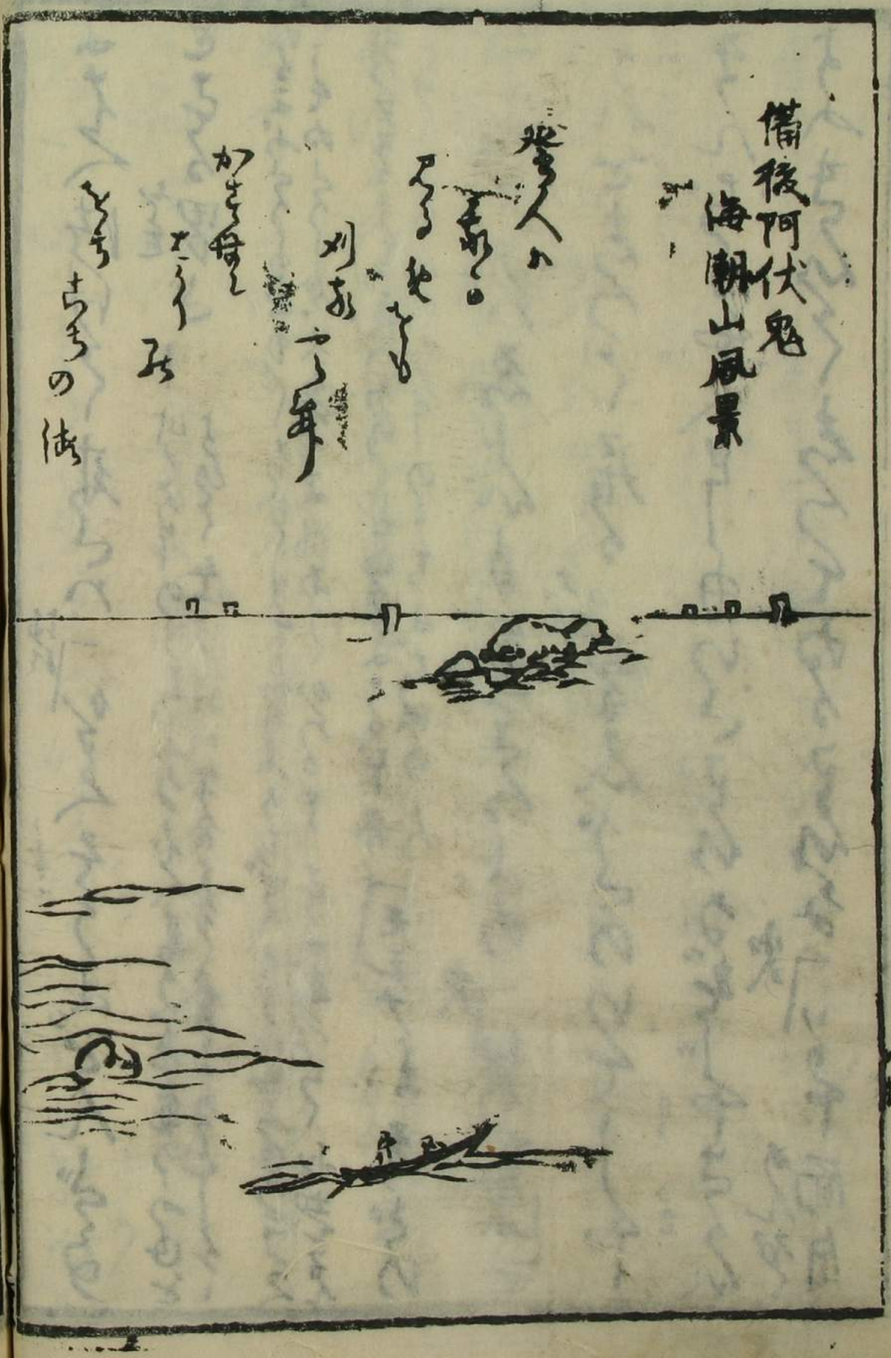
かることろんべごきくのたこさらうゆのあしあと「こらくアア
ゆるくきよはたりハるよどゆんとあるをりちあげ
人のたくさんぐハるんぶろ「アりヤナ。私ろ
づるちせめろ見ゆろるさケニ。お母さんが
ろみりよるさんをのじゃこんな「ナニ私ゆりハ
出ハりるよかんくある私どものだるちらせ
じゃケニ「ホンニぶうくと螺の見ゆきこくろコリヤ
小ハく。私ゆ出るとよ「少ハりヤたまらぬゆちこ
とおそく私を出せべいひとよ「ハりヤおそげ、

長方ろうぶ。ちくぶ弱く、ザアいとへトちりひまろ
してろうとまろう。陪 おさまるちぶ
胸をとをとをとをとろうまて
「ナぢんろう」 見るあろと「そふ」
ぢふでもちろぶん。女あやァ縁がるひとくるぷらつ
のふぶく。本 弄をぢりぶそよちまろと。殊 孫んぶ
そのうろうコレんるせく、トたりとろふ。人形ふさりの 陪 「ヲヤ」
をとをせるをいぢふんせる
ぢふーとのぢ 少 「ふんぢ」 ろめぷ人形をかろく
きやァがつく。背よ 蒲 国のあいぢよ入まそちりか
ちろとぶんまろいぶへまろんかろ。ほうぐけの結ぶハ

よたへ陪けく来さハ 陪 「かろへ」 そろよ。どんぢるの
をとる男ぢ ト 此たるのろ
よめく来うろ

ねろこぶろもそもぐまろうしそ志ちまふうちぶんどろハ出るものろう
をそねよろーが。又ちろよ邸ねーく 陪 ろ亀のつをを
ねをせるろうち。夜ハねめぐとあけよる業合。「モニナ」ちろどめ
ろみのくーろも山のたろりのうちよ。ぢ大阪の人
ねんぢ。タアハろんりそろろの 少 「ちぐぶ」
それをちろく居る 大阪 「ちまんぢさのいそどや」
きんぢうやへ早もいろふる。そどやさうん 少 「ぢ」
よめきんくちそちるる 少 「ソりや」 面白

備後阿伏兎海潮山風景



十返舍

[illegible]も[illegible]ん「アノ[illegible]のあいてへ。そこ[illegible]
[illegible]ぶ。[illegible]ん[illegible]列のおりをいまじゃ
げる「イヤ[illegible]ん[illegible]
あさまから。[illegible]
[illegible]。ちとおそ[illegible]
ぶそん[illegible]。おそび一下通りみい。如何[illegible]
[illegible]ちぶ[illegible]。[illegible]
[illegible]とうよ[illegible]。ホンニ[illegible]一下[illegible]

まんざ[illegible]ぐ[illegible]ん[illegible]
[illegible]ぐと[illegible]
今[illegible]の別[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。持[illegible]
[illegible]人歌を[illegible]
[illegible]琴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぎんじゃ　やっぱり　そこへ　ゐる　玄妻（げんさい）めが　こんな
へんくつな　（少）ヤアゆへべの　ごく　これ　ほんさん　あの
のあいかと　おつとが　ちろりのが　むろのへ　ある
（大阪）ハ　それ　ゐる　ヨイ　ト　ゆきはこさまれべかの　小　おさと
ちんちろくそれくよろしやくしてもろう　ろうの　こぎつけて　ごろさの　あへ　ぎんこう
おうの　ぎんどんろうの　ちろしやうあや　あぐんを　ちきまてふせーハ　ゆをく
ろうそく　（大阪）モシイ　風が　おろよんケニ　ぐんてりハ　遠留
ぢや　ろう　おもろひよぢり　むろこんる　サアぢん
のろく　ぎんくこと　みさんせ　（少）イヤ　くかふ　ほんん

ぢやめんぢ　（大阪）モシ　いそあげ　ろさん　おんいまの
おんなーのろけもあり　（浪）ホンニ　琴浪さんとあり。
あり、この男よ。いひりの　紙　ろさの　（浪）ろんでや。
うらあのさんよあげ　ろりのろんろる　（浪）かくこと
りんぢの　小八　今の　紙　ぬんせ　（少）コレ　ぬんぢとこ
いふ　ゴリヤ　りふ　そんろる　いろこすさ　（大阪）ハテ　いろ
ぢんろのぢや　ろんろる　ぬろる　（少）コレ　ヤ　ろ
それをのつてたやるりのろ　ぢんぢ　（大阪）ろんでん

いてきろしてられるみさんせ「イヤく」ぜ
めへぞ。ゆたさんなぞ。何もかも承知で居る
いと。紙のころ。ト目まぜでちぶせるぐらかの人形とうしろ
琴根ちとえろけうく「モシイ。そのでた紙のぶう。こちおてるんと
トとびついそ「大阪」そのるく。おまん今新はもうこ汁今
じやとおりめで拭ていんでこまて。あげるさろさ
じやるんうる「おぢやいひるさんとるこの
でこのぶうハ。うぶ大切るんのじや

ぶう。蒲團のあいぎよりのあのさんが
ぬそんでいるさんしさのじや。ぶいとデヤ。
うちうちのでたのぶうぶるんとおろんるのげある
ケニ。そうかくしよぶうおうさんるト
ふるとある大るのあとりふハ。るみ大私のせんどうおりくそのあるて
ふ来りすぐるあのあくつるこしるぶいつあてもそのあのさろくしとさ
ふんせざれべぐそんせさるとせんどうのるくひあてどるくかくこるまへ
武人形由琴るるぶるめよるるとひくしりのとるんくうう
さるようてそのあのあるんとるきく人形るくてれくちゃちゃるのぶ上
とちくじるとるるぶうよ小八のとりかくくかくくとるうるうくして姉ちゃと
いひ今世人形をうる久さんるあるぶ
ひひよ来りとりつるくしのとるとるさん「大阪」くくスリやっおまん黄くん

てごん〳〵さのじやなん。破傷風とさんさをおく
じや。ゆまくてごん〳〵さのじやゆこりややさぶく
ぶる〳〵ぶるてらさんの死るさん〳〵さケニ今
うちくづるのじやこんひるさんもさぶく
ぶし〳〵ぶるあの小舟よのうちんが男ろをもしてあぶろ〳〵さの
かさくもくとれへ出ゑゝのおやかとくもくとこんさろ出れ〳〵さおろ〳〵さ
をちぐて

塗立の胡粉ぎさての人形わ
そろ〳〵そげてきさ八の唄

出狂言奇ゑ私中をおく小八の私をんてぶろと
笑ひを催しる。ゆぐとく風をろ沒もよりそ。
私ぶども帆を引あげ揖とり車。ゆ漕を出る
そ。鍋の明神のかさを。ゆく遥拝して。
青葉ぐ姿しるよる後浪沖
居ろのぐら洋む神のめぐそよ
かゝく私をさるよ沖ゆろよんしり出。赤飯
青飛魚ゆ鳴をうちよ。ゆ阿伏鬼といのとろよ

いる。爰より海潮山般若寺といふ寺あり。
其庭より廊下の殿道をのぼれば。海岸の
うへに観音堂の事のよしてるあり。ほとんど中八ハ
繋合の人々と作るよ系清しんるよ。ふの
尾嶋海岸よのぞきしるうへよ。常夜の燈籠
あり。観音堂より。人あらせば。向浪見えよ涌
かんとく。同も眺さ。見の骨もかもれたりよ。
石垣ハさるのぐら峰の巣ふも似く

光明のさとを阿伏兎観音
かくて此所より。年の比六十余あまりの。和尚
めれしるが。彼の男よ見ぐ。ゆうのりの。そのあり
寺舞樂よ。蕪菁るど紙一番よりとも。宮殿の
ゆうとゆくゆくゆくのうとくく。仮転をとるよ仏ぐ。
作よ打繋せ。私を漕出つ。矢作紙るる田の殿
とのふよいる。桃殿るるた殿るるとのあるよう。
侍吹嶋九亀嶋。殿亀ぐて此寺紙横殿の瀬戸

とりのこそ
秋和ハ堅横糸の瀬戸の五月
かなしきの糸よりまる志ぶ浪

續勝栗毛二編 上巻終

太一文

宮板